

すわみつえ通信

No.140 2020年9月14日(月)

日本共産党鴻巣市議会議員

諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



ホームページで、すわみつえの政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かし いのちとくらしを守る市政に

9月市議会・文教福祉 常任委員会の審査にて

文教福祉常任委員会に付託された案件は、2020年度一般会計補正予算(第6号)・2020年度介護保険特別会計補正予算(第2号)・2019年度一般会計決算・2019年度介護保険特別会計決算・新日本婦人の会が提出した「少人数学級を求める請願」の全部で5件です。2日間に亘り、補正予算を含む4件に賛成し、一般会計決算認定に反対をしました。

総額1億5千2百万円追加
する2020年度一般会計補
正予算(第6号)に賛成

主な事項は

①民間保育所施設整備事業

(2億8千813万9千円)

北新宿区画整理地内(生涯学習センター近く)に定員90名の新たな保育園が建設されます。来年4月1日開設です。

②図書館管理運営事業

(1億7千250万9千円)

図書館情報システムの更新委託料と、電子図書を導入するためのシステム改修です。

③放課後児童クラブ管理運営事業

(1億315万1千円)

小学校一律休校時の特別開室と、3密対策で小学校の余裕教室を使用しての支援単位の増加に伴う指管理料の増額です。

2019年度一般会計決算に反対討論をおこなう

2019年度は、低所得者ほど負担率が高い逆進性のある消費税増税が強行された年です。市民のくらし応援の予算執行であつたかの観点から、①難病手当5000円から10000円に減額されたままであること、②消費税増税軽減策のプレミアム付商品券の利用率が30%台というのは、低所得者への深刻な影響を緩和することができなかった現われであること、③通学区域審議会は前年度に続き2回開催されました。笠原小学校入学児童がゼロになったことは審議結果が生かされない教育委員会の行いと言わざるを得ないこと、等を指摘し、反対討論を行いました。

少人数学級の前進をもとめる請願は不採択となる

新日本婦人の会が提出した「国の責任による『20人程度学級』を展望した少人数学級の前進をもとめる請願」について、すわみつえは紹介議員として請願趣旨の説明と質疑への答

弁を行いました。加藤久子議員の賛成が得られるも委員会では不採択となりました。

北鴻巣駅周辺の樹木と除草に 合わせ、ムクドリ対策も進む

8月末に背の丈まで伸びた草の除草を市に要望していました。9月初旬、市は伸びた枝の剪定作業に合わせ、道路課の職員が、ムクドリが危険時に発する声を疑似加工した機械を使い、数日間に亘り、機械音を出して追い払い、効果が出ています。



除草後

除草前

俳句コーナー

コロナ禍を耐えて見上げん
二重の虹を

瑠璃子

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

少人数学級推進を中間答申 「令和のスタンダード」に一教育再生会議

新型コロナウイルスを踏まえた小中高校の学びの在り方について討議する政府の教育再生実行会議ワーキンググループ(主査・佃和夫三菱重工業特別顧問)は9月8日、文部科学省で初会合を開き、少人数学級を「令和時代のスタンダード」として推進するよう要請する中間答申をまとめた。萩生田光一文部相は同日の閣議後記者会見で、安倍晋三首相に答申を提出し、次期政権に議論が引き継がれるよう求める考えを示した。会合では、新たな時代の学習環境に関し、「3密」の回避やパソコン端末の活用を進める観点から、少人数によるきめ細かな指導体制を計画的に整備する方向性を確認。1クラス30人以下の学級編成の早期実現を訴える意見などを踏まえ、中間答申では今後の予算編成過程で関係者間で丁寧に検討するよう要望した。

【時事通信社 9月8日付】



政府の教育再生実行会議のワーキンググループ初会合に臨む萩生田光一文部科学相(写真右)=8日、文科省

きょうの潮流

しんぶん赤旗 9月9日付

“戦争のために再びペンやマイクをとらない”。痛恨の反省を原点とし、65年前に産声をあげた日本ジャーナリスト会議(JCJ)は「真実の報道を通じて世界の平和を守る」ことを目的に掲げてきました▼新聞や放送、出版や写真をはじめ各分野で活躍するジャーナリストの自主的な組織。その多彩な運動の一つに、年間の優れたジャーナリズム活動を顕彰する「JCJ賞」があります▼63回となる2020年JCJ大賞に、「しんぶん赤旗」日曜版の連続スクープが選ばれました。後援会員を大量に招き、公金で花見をしていた安倍首相の「桜」疑惑を追及。地道な調査報道を重ね、安倍政権の本性を明らかにしたと▼SNSにあげられた参加者の情報をもとに首相の地元をまわり、記者が得た重要な証言。それは自民党の閣僚経験者さえも「一切の言い訳はできない。私物化の極みだ」とあきれけるほどの実態を世間に示しました▼税金おもてなしを知っていた大手メディアではなく、なぜ「赤旗」が報じることができたのか。それは問題意識をもたず私物化の視点がなかったからと、大手新聞の幹部が語っています。その姿勢はいまの総裁選をめぐる検証なき垂れ流し報道と通じるように思えます▼時をあわせて刊行される『赤旗スクープは、こうして生まれた!』(新日本出版社)はメディアの果たす役割を改めて、そこには雑誌『世界』の一文が引用されています。赤旗にあって大手メディアにないものは「追及する意思」ではないのか。



いま、富山のローカルテレビ局が自民党市議らの公金不正使用を追ったドキュメンタリー映画が話題になっています。疑惑を突きつけられると最初は否定。追いつめられると謝罪や辞任をくり返す。みにくい姿とともに、政治や報道のあり方を投げかけます。何のための政治か。国政の縮図のような映画の題名は「はりぼて」。見かけは立派ですが、中身が伴わないことやものの例えです。【しんぶん赤旗 8月25日付 「きょうの潮流」】

“有権者に占める自民党員の割合が10年連続日本一”である保守王国、富山県。2016年8月、平成に開局した若いローカル局「チューリップテレビ」のニュース番組が「自民党会派の富山市議 政務活動費事実と異なる報告」とスクープ報道をした。この市議は“富山市議会のドン”といわれていた自民党の重鎮で、その後、自らの不正を認め議員辞職。

これを皮切りに議員たちの不正が次々と発覚し、半年の間に14人の議員が辞職していった。その反省をもとに、富山市議会では政務活動費の使い方について「全国一厳しい」といわれる条例を制定したが、3年半が経過した2020年、不正が発覚しても議員たちは辞職せず居座るようになっていった。

記者たちは議員たち取材するにつれ、政治家の非常識な姿や人間味のある滑稽さ、「はりぼて」を目のあたりにしていく。しかし、「はりぼて」は記者たちのそばにもあった。

本作は、テレビ番組放送後の議会のさらなる腐敗と議員たちの開き直りともいえるその後を追った政治ドキュメンタリー。あっけなく辞職する議員たちの滑稽な振る舞いは、観る者の笑いを誘わずにいられない。追及する記者を含めた私たちは、腐敗した議会や議員たちを笑うことしかできないのだろうか。果たして「はりぼて」は誰なのか? 地方からこの国のあり方を問うドキュメンタリーが誕生した!

【映画「はりぼて」公式サイトの解説から】